

# 平成26年度 理窓会代議員総会 来賓挨拶

学校法人 東京理科大学理事長  
中根 滋(46理工・電)



東京理科大学理事長 中根 滋

多くの皆さまとは昨年葛飾キャンパスで行われた代議員総会にお目にかかって以来、一年ぶりかと思えます。母校理科大のために全国から熱い思いを持ってお集まりいただき、学校法人東京理科大学の理事長として心より御礼を申し上げます。

「日本の理科大から世界の理科大を目指そう」という目標を掲げ、昨年、132年の歴史の中で初めて中長期計画を作成しました。向こう6年間を見渡し、将来の「あるべき姿」を教育と研究、そして国際化の観点で、各部局において検討しました。この計画から先生方、事務職員、役員の皆さんの努力の甲斐もあって少しずつ蓄(つぼみ)が出てきました。また、木の幹となる根幹部分の機構の改正・改革も静かに実施を行い、強化をしてみました。

今年4月には学長室の機能強化として改革の第一弾を行いました。理科大が世界競争に打って出るということもあり、諸先輩方が明治14年、どのような環境で建学の精神を願ったのか、改めて考えてみました。明治維新を迎えて物理学の教本が初めて日本にできた明治5年までは、日本には物理学という学問はありませんでした。このような環境の中であって、何としてでも日本の将来のために物理学を中心とした理科教育をきちんと行わなければならないという思いに触れ、ここに理科大の原点があるのだと心を打たれました。133年を経た今日、我々は21世紀を見渡してどのような思いを持ち世界を目指すべきなのかということ

を考えさせられました。その中で基本をもう一度しっかりと見直そうということで、藤嶋学長の二期目にあわせて、学長室の機構改革を藤嶋学長と相談のうえ行いました。

教育、つまり子どもたちに教えるという行為は研究と同じぐらい、もしくはそれ以上に大切なものです。今日の理科大があるのも教育のおかげです。そこで、教育の責任者として教育担当の副学長という立場が必要であるとの決定を最初に行いました。工学部機械工学科の山本誠先生にお願いしましたが、こうよう会からの評判も非常に良く、明るく、英語にも通じていて、子ども達を元気にすることができる教育者です。また、FD (Faculty Development) のリーダーをされていることもあり、誠に適任な先生だと思います。

次に、その隣に研究担当の強いリーダーが必要であると考えました。「めざせエベレスト」という目標を掲げました。山は登ろうとしなければ絶対に登れないという信念を持ち、どうせ登るのであれば世界最高峰であるエベレスト、つまりはMIT (マサチューセッツ工科大学) を目指そうと決めた訳です。しかし、理科大はまだ富士山を制覇していないので、策がないとかなり時間がかかるのではないかと思います。そこで、富士山のみならず文部科学省の事務次官として2013年7月まで日本中の素晴らしい大学の研究の山々を監督してきた森口泰孝先生を、藤嶋学長と私の二人で理科大にスカウトしてきました。当然文部科学省の事

務次官ということで理事長の職をお願いしてもおかしくない立派な方なのですが、副学長ということでお願いをしました。この方に理科大の将来を預けたいという思いがありました。森口先生からは「理科大の将来性は素晴らしい。日本の全てを知った上で、21世紀の理科大に大いに期待しているので、未来の理科大を創るお手伝いをさせていただけるのであれば、わが人生の誉としたい」と回答をいただきました。このような経緯もあり、研究領域を一気に加速させ、6月には野田キャンパス10号館を改修し、総合研究棟を竣工しました。これにより、21世紀の理科大が世界の理科大となり、研究力を向上させてノーベル賞を目指していくプラットフォームができました。

そして、総務、つまりオペレーションを担当していただく三人目の副学長は平川保博先生にお願いしました。平川先生は理科大の卒業生で、大学のことをよく熟知しており、理科大発展のため大変苦勞された先生です。これにより、まさに藤嶋先生の三本の矢が出来上がったわけです。

先日森口先生がマハティールさんとの帝国ホテルにおける記者会見において次のように理科大の紹介をされていたのでご紹介させていただきます。

「理科大には産学官の三本の矢が揃っている。

産が中根で、学があの有名な藤嶋先生。不肖、私が官の代表でございます。」

マハティールさんもうなずいておられました。マハティールさんは東方政策のビジョンを作られた方で、日本のことを深く大きく評価されています。記者会見で来日された際、会見の前に首相官邸の安倍首相を訪ね、「私は理科大が好きだ。理科大と一緒に理科大の国際化をこれから進めていこうと思います」ということを仰っていただいたそうです。そして先週、私はマレーシアに行って、副首相兼教育相、そして教育省の事務次官から大歓迎を受けました。理科大がこれまで1万人以上の高校教員を輩出しており、現役の校長先生が90人以上、現役の先生が4500人以上だという事をお話ししたところ、是非そのような大学と、国としてお付き合いをさせていただきたいとお話をいただきました。

最後に繰り返しになりますが、学校の将来は卒業生の熱い思いに支えられて伸びていきます。理窓会という、素晴らしい卒業生の会に所属する皆さんにも未来の理科大をつくる我々の努力に対して、ご指導・ご支援を賜りたく、よろしくお願い致します。皆さまのご多幸を祈念して、私の平成26年度理窓会代議員総会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

